

学友

第 18 号

巻頭言



埼玉大学緊急支援奨学金

―新型コロナウイルス感染症に
立ち向かう―

埼玉大学教育学部長 薄井 俊二

二〇一九年に発生した「新型コロナウイルス感染症」は、埼玉大学にも大きな影響を与え、教育研究活動に多くの困難をもたらしました。その中で、埼玉大学として、校友会はじめ埼玉大学関係者や広く地域社会からの協力も得ながら、学生に対する様々な支援を行ってきたところです。今回はその一つである「埼玉大学緊急支援奨学金の支給」を紹介します。

この事業は、保護者の収入減やアルバイトの激減などにより、学生生活を送る上での困難に直面する学生に対して現金を給付する奨学金制度です。二〇二〇年度は、財源として、広く寄付を募ったところ、一般の方から六、五〇〇万円の寄付がありました。この寄付

目次

巻頭言	薄井 俊二	1
埼玉大学緊急支援奨学金	薄井 俊二	1
『学友』を読んでくださったいる	薄井 俊二	1
教育学部生・院生の皆さんへ	福島 正美	2
教職支援委員会から	福島 正美	2
特集 卒業して思うこと	福島 正美	3
附属幼稚園における「教育実習」	福島 正美	5
		8

教育実習体験記	令和三年度校友会事業報告	11
卒業五X周年同窓会開催等案内	埼玉大学ホームカミングデー	12
令和三年度校友会役員・学年理事名簿	校友会会則	13
事務局だより・編集後記		14
		15
		16

が、日頃の感謝の気持ちをお届けします。」(教職員)

「縁あって昨年から埼玉県民になりました。少額ですがせめて学生さんの一冊の本代になればと思います。」(一般の方)

卒業生や教職員からの支援の外に、直接埼玉大学に関わりの方に、直接埼玉大学に感謝しています。埼玉大学は地域社会からも注目され、期待されていることが分かります。こうした方々に感謝の気持ちをもち、つとともに、期待に応え、成果を社会に還元し、社会に貢献できる大学であらねばならないと強く感じました。

学生からの感謝のメッセージも紹介します。

「奨学金をご支援頂き、ありがとうございます。頂いた奨学金で、やっと教科書を買えました。卒業後も大切に使用します。」

「コロナウイルスによりアルバイトをしていた塾が休業し、生活に困っていましたが、皆さまのおかげで今後も学業を続けられそうです。頂いた金額以上に皆様や社会

に還元できるよう、より勉学に励んでいきたいと思っています。」

「埼大OB・OG、一般の方、教職員の方々からご支援を頂き、多くの人に支えられている埼玉大生としてとても誇らしく思いました。」

支援を受けた多くの学生の声を代弁するものでしょうが、感謝の気持ち、支援を糧に次には自らが支援者となる決意、そして多くの人に支えられている埼玉大生としての誇りが表明されています。こうした立派な考えを抱えている学生諸君について、われわれも誇りに思うところです。

この原稿を書いている時点では、日本では感染症は縮小に向かっています。しかし、ドイツや東欧など、急激な拡大が続いている地域もあり、日本でも警戒を緩めるわけにはいきません。しかし、感染症拡大の中で見えてきた、日本社会のもつ矛盾に立ち向かうとともに、困難な時だから見えてきた「埼玉大学のよさ」というものも、あらためてかみしめ、大切にしていきたいと思えます。